

岡山市 立体駐車場を避難所に

パチンコ店28店舗を指定

岡山市ばちんこ業協会（会長・千原行喜氏）が、津波などの非常災害発生時にパチンコ店の立体駐車場を開放し、地域住民等避難者の安全を確保するための協定を岡山市と締結した。

今回締結されたのは「災害時における一時避難場所の指定に関する協定」で、比較的堅牢な構造となっているパチンコ店の立体駐車場を避難者の一時避難場所として活用するもの。

ちなみに、市内にある会員店舗28店舗が指定されたが、その

立体駐車場のスペースは約5500台におよぶ。

岡山全日空ホテルで行われた締結式では、高谷茂男市長と千原会長が協定書に調印。市から関係者に対して「一時避難指定書」が交付された。

また、益商戦を前にメーカーから機種のリリースが相次いでいる。認知度の高いコンテンツの採用で、ファン拡大を目指す姿勢がうかがえる。

ガイアとグループ企業による所得隠しが今週早々、各メデ

アで大々的に報じられた。

経営の透明化はもとより、前述のような地域社会との共生活動など企業の社会的責任を重視する姿勢が広がりを見せるなか、このようなニュースは残念でならない。

一企業の不祥事は何も遊技業界に限ったことではないが、一部のマイナスが業界全体のイメージ悪化につながりやすい実情を考慮すれば、コンプライアンスに対し他産業以上にナーバスになる必要がある。

（ニュース提供：LOGOS ×遊技通信）

遊技産業の視点 Weekly View

植島 啓司

宗教人類学者・
元関西大学教授



みなさんはリナックス(Linux)をご存じだろうか。マイクロソフトのウィンドウズやアップルコンピュータのマッキントッシュなどと同じコンピューターを動かす基本ソフト(OS)で、ただし、こちらは無料のオープンソースで改良も自由ということになっている。

フィンランド人のリーナス・トーバルズ氏が個人で開発したもので、いまや世界中で広く利用されている。彼はその権利を100億円でも売れたのに、それで一銭ももうけようとしなかった。いったいなぜか？

その答えは彼の考え方を知れば明らかになる。リーナスの著書『それがぼくには楽しかったから』（風見潤訳、小学館プロダクションズ、2001年）の冒頭に「人生の意味とは何か？」という問いかけがある。結論から書くと、彼は人生にとって意義あることは3つあって、それは段階を追って進化してきたという。1つめは「生き延びる」こと、2つめは「社会秩序を保つ」こと、3つめは「楽しむ」こと。人生ではどんなことでも、初めは生存に関係しており、それから社会的なものへと移行し、最後は純粋に楽しみとなる。その他には何もないというのである。

セックスを例にとってみよう。セックスはまず生存の手段だったのが、次第に社会的なものへと変化してきた。結婚する理由もそこにある。それから後になってセックスはひたすら楽しみとなる。つまり、生きる目的は、せんじつめて考えると「楽しむ」ことではないというのである。つまり、彼がリナックスを開発したのは自分の楽しみのためであって、お金のためではないというのだ。まさにハッカーの面目躍如といったところではないか。

生きていくうえでいろいろと不安はあるものの、現在の日本で「生き延びる」ことはそれほど難しいことではない。いかに日本が諸外国と比較して恵まれているかはあらためて言うまでもないだろう。この30年間、世界最貧国の一つであるネパールで調査してきて、さらに、ここ数年、エチオピアやアフリカ諸国に滞在して、日本人が抱えている不満などいかにちっぽけなものか再確認させられている。「社会秩序を保つ」ことも同様で、これほど規律がしっかりしている国は海外ではほとんど見られない。

つまり、もう一度くりかえすと、われわれにとってもっとも大事なことは人生を「楽しむ」ことしかないということになる。ダンスパーティー、カジノ、競馬、パチンコ、ナイトクラブやバーでの仲むつまじい会話など、それだけが「生きている意味」だとしたら、遊ばないで仕事ばかりしているのはどこか間違っていることになる。そう、いつまでもしかめっ面していないで、いまずぐにでも街に出て、みんなで一緒に楽しみを見つけようではないか。もしかしたら、そこにこそ、いまの時代を乗り越える秘訣が隠されているかもしれないのである。

もっとも大事なことは人生を「楽しむ」こと



うえしま・けいじ 宗教人類学者、元関西大学教授。東京大学人文科学研究科大学院（宗教学専攻）博士課程修了。シカゴ大学大学院に留学、M・エリアーデらのもとで研究を続ける。NYニュースクール・フォー・ソーシャルリサーチ客員教授などを歴任。著書に『分裂病者のダンスパーティー』『快樂は悪か』ほか。

写真にスマホをかざしてください

専用アプリ「CLIC2C」（無料）をインストールしたスマホでマークの付いた写真を読み込むと、関連した情報サイトが閲覧できます。iPhone、Androidいずれでもご利用可能です（一部対応しない機種があります）。

※CLIC2Cご利用の注意点
・本サービスはGPSデータを含むアクセス情報を取得しています。
・3G回線を使っでの通信費用はご利用者の負担になります。

●ピックアップ

- 6月28日 ニューギン、パチスロ新機種「兎一野性の闘牌」をリリース
www.yugitsushin.jp/news/6422/
- 7月2日 全日遊連総会 新執行部決まる
www.yugitsushin.jp/news/6471/
- 7月2日 東京都公安委員会検定通過状況
www.yugitsushin.jp/news/6479/
- 7月2日 豊丸産業が「CR天地を喰らう」のプレス発表会
www.yugitsushin.jp/news/6465/
- 7月7日 岡山市ばちんこ業協会が岡山市と協定締結 [遊技通信web]
www.yugitsushin.jp/news/6489/
- 7月9日 タイヨーエレクトが「CRカメレオン」の展示会
www.yugitsushin.jp/news/6492/

藤商事、ヒト味違う“オモシロ、さ！”

フォーカス レポート

藤商事（大阪市中央区）は、1958年に創業。じゃん球のメーカーとして遊技機の開発に着手し、73年にメダル式アレンジボールを、83年には玉式アレンジボールをリリース。89年にパチンコを世に送り出した。

また、21世紀に入りパチスロ市場にも参入。2007年にはジャスダックへの上場も果たし、総合遊技機メーカーとしてのポジションを固めた。機種名を挙げれば、パチンコ「暴れん坊將軍」シリーズや「CRリング〜呪いの7日間」などで知られている。

パチンコと一口に言っても世間では、どのような素材、技術が用いられているのかほとんど知られていない。そんなパチンコについて、井上孝司代表取締役専務は「808×520の小宇宙」と形容する。

「パチンコ機には数多くのマテリアルが使用されており、古くからの技術と最先端技術が融合して作られている」と井上専務。その素材は、大きく分けても木材、ガラス、プラスチック、金属類、電子パーツ、液晶、モーターなど、それぞれ形を構成するものから、内部の繊細な電子部品まで多種多様だ。



多くの人々の協力で1つの遊技機が誕生する

関係している企業をみても、日本を代表する大手から地方の中小・零細まで、数多くの技術の集大成としてパチンコは存在している。どんなにたくさんの人々がパチンコという機械の製造に関わっているのか、その数には驚きを隠せない。

「時代とともにパチンコも変化を遂げてきた。くぎと玉の動きによるパチンコ本来のゲーム性に加え、3DCGを用いた液晶演出、重低音サウンドの採用と、目を見張る速度でゲームとして進化している」（井上専務）

今後、さらに社会と時代のニーズに呼応して、パチンコのゲームとしての精度は高まっていくという。

藤商事はモノづくりの企業として、その開発において常に「ヒト味違う“オモシロ、さ！”を追求」（オリジナリティーの追求）を根幹に据えてきた。

マイコンを利用した遊技機開発も同社が先駆けだ。その他、くぎ打ちロボットの導入、流線形立体皿搭載枠、パチンコのインテリジェンス化（メイン基盤とサブ基盤を分けた開発）、演出のプッシュボタン搭載、ラウンドの振り分けなど現在では当たり前になった技術やゲーム性を生み出してきた。

「“お客さまの繁栄を売ろう。これが当社の経営理念」と松元邦夫社長。「お客さま」とは、ファン、パチンコホール、地域社会の人々と幅広くステークホルダーを指している。その人々の繁栄があって初めて、企業の繁栄が成り立つという。

現在、企業としては本業への注力と同時に、企業市民としての責務を果たすべくCSR（企業の社会的責任）活動を推進。体温の感じられる企業として、持続可能な成長を目指している。